

2026年度

③ 国 語

(100点 60分)

〈注 意 事 項〉

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題は、2 ページから19ページまでです。全問解答しなさい。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 氏名欄
氏名・フリガナを記入しなさい。
 - ② 受験番号欄
受験番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
- 5 正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問

次の文章を読んで、後の問い（問1～12）に答えよ。なお、作問に際して本文の表記に改変がある。（配点 70）

高度経済成長期を通じて、農業と工業の間の格差は拡大しつづけた。しかし、農業も工業ともに、高い成長率を維持することができて、このような相対的^①乖離の問題は政治的課題とはならなかった。「1」その要因の一つは、封建制の時代から一貫してみられた日本農村の閉鎖性であるといってもよい。これは一つには、日本農業の基盤に位置してきたのは水田稲作であって、それはまた、村落共同体の存在によってはじめて機能しうるものだったからである。そして、農民は次第に、農を営むという **I** な関わりを失って、自らの [㍑]シテイが、できれば農村から脱出して、工業部門、都市に移ることをすら期待しはじめたのである。

農業基本法はこのような状況のもとで、きわめて効果的に機能していった。というのは、市場経済的な論理のもとでは、工業化によつてはじめて、一国の経済発展が可能となるものであって、農村の役割は、すぐれた人的資源の供給源という機能を果たすだけである。雇用、所得、生産統計いずれをとってみても、農業部門の占める相対的ウェイトが低くなればなるほど、一国経済の発展、成長が著しいという考え方が、一つの中心的な意味づけをもっていたからでもある。

このことはまた、日本経済の高度経済成長期をつうじて、工業、農業どちらの部門にとつても、きわめて望ましい状況をつくり出していった。工業部門ではとくに、生産、雇用、所得のいずれの面でも、 **II** にその前例をみないような高い率で成長をつづけることが可能になった。と同時に、農村における人口流出、とくに若年労働力の流出によって、一人当たりの農業生産性は高い率をもって上昇しつづけるという ^A奇妙な現象を呈することになった。

しかし、このことは、国際的観点からみたときの日本農業の相対的地盤沈下となって現われていった。

^(注1) 新古典派でないし、^(注2) 新リカードー学派の論理を適用すればつぎのようになる。日本経済は、人口、経済活動の水準の比率において土地が希少である。 **A** 、日本経済におけるもっとも効率的な資源配分は、できるだけ土地を少ししか使

わないで、しかも土地単位面積当たりの①シユウカクがもっとも高くなるようなかたちでなされるべきである。

この視点にたつとき、^(注3)ヘクシャー＝オーリン的な国際的分業が、日本経済、**B**日本の農業にとつてもっとも望ましいという結論が

IIIに導き出される。すなわち、各国は、それぞれ、相対的にゆたかな②賦与量をもつ生産手段を比較的多く使用するような財の生産に特化し、相対的賦与量が少ない生産手段を比較的多く使用するような財は、外国から輸入した方が、国民経済の経済厚生という観点から望ましい。「2」土地の賦与量が相対的に希少である日本経済の場合、農業という、より土地集約的な産業はできるだけ縮小して、工業部門に特化する方が望ましい。

この、農業基本法の背後に存在する経済思想はじつは、^(注4)IMF制度とならんで、第二次世界大戦後の国際経済関係を規定する重要な制度の一つである^(注5)GATT体制の考え方とまた、^(注6)キを一にする。関税、非関税障壁を取り除いて、自由な貿易と資本移動のもとで、世界の各国の経済厚生がすべて高くなるという、すぐれて新古典派的命題が、このような制度ないしは政策的展開の基礎におかれている。

C、このような思想的な立場をはつきり意識して現実の政策的選択がなされてきたわけではない。しかし、たとえば、高度経済成長期の終わり頃から、日本とアメリカとの間で懸案となってきた、いわゆる貿易摩擦の問題についてアメリカ側が出してきた理不尽な要求も、このような経済思想的な考え方を根拠としながら展開されてきたものであり、またその故に一応の説得力をもっていた。

Bこの新古典派的な経済思想の立場を貫くとき、一国の産業構成の望ましい姿にかんしてつぎのような結論が導き出される。国内的には、生産、流通、消費にかんするさまざまな規制ないしは政策的介入を撤廃し、国際的には、関税、非関税障壁を取り払い、貿易、資本移動が自由におこなわれるような状況のもとで、結果として実現する産業の構成、雇用の形態が、その国の経済厚生という観点からもっとも望ましい姿である。望ましい産業、雇用の構造は、事前に決められるものではなく、市場における競争の結果として、事後に決められる。

日本経済の場合、土地の相対的希少性を考えるとき、完全に工業部門に特化して、農業部門は完全に消滅するような状態が最適な資源配分のかたちであるというのが、この、新古典派的命題の主張するところである。「3」かつてある会合で、私が、農業部門の果たす自然環境保全にかかわる機能の重要性を^(エ)シテキしたとき、日本の農地全部を公園とすればよいという暴論を唱えた新古典派経済学者がいたということを補足的ながらふれておこう。

このような新古典派的な経済思想、ないしはそれにもとづく政策的命題がいかに非現実的であり、また反社会的な性格をもっているかは改めて言及するまでもない。しかも、これらの命題にかんしては、^(C)その論理的根拠もまた著しい⁽³⁾誤謬にもとづいたものである。

まずシテキしなければならない点は、一国の「経済厚生」の水準という言葉がしばしば用いられているが、その概念規定がきわめて曖昧であり、ときとして大きな矛盾を含んでいることである。一国の「経済厚生」というとき、それは、いわゆる代表的個人を想定して、その代表的個人が享受する^(注6)ベンサム的な効用にもとづいて、資源配分のパフォーマンスを評価しようとする。そこには、所得分配の不平等性にかんする問題意識は影をひそめ、企業はたんなる生産要素の^(IV)な結合にすぎない、幻影的な存在とされてしまっている。また、人々が生産にたずさわるときに感ずる職業的⁽⁴⁾矜持も存在しないし、社会的、文化的香りも消えてしまった世界が想定されている。新古典派的個人は、

甲

のような、非人間的な、抽象的な経済人である。

新古典派的命題についてシテキしなければならない第二の問題点は、生産要素のマリアビリティ⁽⁵⁾（可塑性）にかんする前提条件である。

D

、生産要素がすべて、そのときどきの市場的条件に応じて、自由に、その用途を変えることができるという条件がおかれている。「4」農業についていうと、農業の比較優位性が失われたとき、これまで農業部門に投下されていた生産要素を、なんら費用をかけることなく、また時間的経過もともなうことなく、工業部門に転用することが可能であることを意味する。

E

、農産物の国際価格が上がって、農業の比較優位性が回復されたときには、これまで工業

部門に投下されていた生産要素を、なんら費用をかけることなく、また時間的経過もともなうことなく、農業部門に転用す

ることが可能であることを意味する。この前提条件がみたされるような状況は現実にはありえないことは明白である。しかし、新古典派命題が成立するためには、このマリアビリティの条件が④フカケツであつて、もしこの条件がみたされないと
きには、新古典派命題の結論はほとんどすべて成り立たなくなってしまう。(中略)

農業の問題を考察するときにまず必要なことは、農業の営みがおこなわれる場、そこに働き、生きる人々を総体としてとらえなければならない。「5」

一つの国がたんに経済的な観点だけでなく、社会的、文化的な観点からも、安定的な発展を遂げるためには、農村の規模がある程度安定的な水準に維持されることがフカケツである。このことは、これまでの農業の特性について述べてきたことから容易に推論することができよう。とくに、一国の社会的、文化的水準を高く維持しつづけるためには、農業で生まれ育った若者の人数が常に一定の水準にあつて、都市で生まれ育った若者と絶えず接触することによって、すぐれた文化的、

V

条件をつくりだすことは必要である。

(宇沢弘文『社会的共通資本』)

(注1) 新古典派——一八七〇年以降に形成された近代経済学派の総称。

(注2) 新リカードー学派——イギリスの経済学者リカードーの現代的解釈に立つ経済学派の名称。

(注3) ヘクシャー・オーリン的な国際的分業——経済学者のヘクシャーとオーリンが提唱した国際貿易における分業。

(注4) IMF——国際通貨基金 (International Monetary Fund)。

(注5) GATT——関税および貿易に関する一般協定 (General Agreement on Tariffs and Trade)。

(注6) ベンサム——イギリスの哲学者・経済学者・法学者(一七四八—一八三二年)。「最大多数の最大幸福」を唱えた。

問1 傍線部ア～オに相当する漢字を含むものを、次の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は

1

～

5

。

ア

シテイ
1

- ① 義テイは三歳下だ
② 皇テイ陛下の臨席
③ 新テイを建築中だ
④ 校テイに避難する

ウ

キ
3

- ① 父がキ籍に入った
② 実力を発キできた
③ 心のキ跡をたどる
④ 控訴はキ却された

オ

フカケツ
5

- ① 豪ケツ達の偉人伝
② 出ケツ確認の点呼
③ 清ケツ感のある服
④ 止ケツ剤を与える

①

シユウカク
2

- ① 財布をシユウ得する
② 彼に一シユウされた
③ 不快なシユウ態です
④ 廃品回シユウの業者

エ

シテキ
4

- ① 汽車の警テキが響く
② 窓枠に水テキが付く
③ 全員で外テキを倒す
④ 密売人をテキ発した

問2 次にあげる文は、本文中から抜き出したものである。戻すべき適切な箇所を、後掲の①～⑤（本文中の〔1〕～〔5〕）のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

いわゆる農村という概念的枠組みのなかで考えを進めることが必要になってくるわけである。

- ① 〔1〕 ② 〔2〕 ③ 〔3〕 ④ 〔4〕 ⑤ 〔5〕

問3 傍線部①～⑤の語の読み方として適切でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- ① 乖離 かいり ② 賦与 ふよ ③ 誤謬 ごびゅう ④ 矜持 きょうじ ⑤ 可塑 かそ

問4 空欄A～Eに入れるのに最も適切な語を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ選択肢を複数回使うことはできない。解答番号は A 8 B 9 C 10 D 11 E 12。

- ① もちろん ② したがって ③ すなわち ④ ひいては ⑤ 逆に

問5 空欄Ⅰ～Ⅴに入れるのに最も適切な語の組合せを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

13。

- | | | | | | |
|---|-------|--------|---------|--------|-------|
| ① | I 人間的 | II 歴史的 | III 瞬時的 | IV 主体的 | V 必然的 |
| ② | I 主体的 | II 歴史的 | III 必然的 | IV 瞬時的 | V 人間的 |
| ③ | I 人間的 | II 必然的 | III 歴史的 | IV 主体的 | V 瞬時的 |
| ④ | I 主体的 | II 人間的 | III 必然的 | IV 歴史的 | V 瞬時的 |
| ⑤ | I 主体的 | II 瞬時的 | III 歴史的 | IV 人間的 | V 主体的 |

問6 傍線部A「奇妙な現象」とあるが、その具体的な内容の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選

べ。解答番号は

14。

- ① 高度経済成長期に農業と工業の格差は拡大したが、それを課題として見なさなかったのは不思議な現象だということ。
- ② 封建制の時代から日本の農村は閉鎖的であったが、戦後の農村が経済成長を維持したのは不思議な現象だということ。
- ③ 工業化によって経済の発展が可能となるはずだが、日本は農業によって経済発展したのは不思議な現象だということ。
- ④ 戦後には工業が成長して農村の人口は流出したが、結果的に農業の生産性が上昇したのは不思議な現象だということ。
- ⑤ 国際的観点から見れば日本農業は地盤沈下したが、国内的に見れば農業が急成長したのは不思議な現象だということ。

問7 傍線部B「新古典派的な経済思想」とあるが、この立場から日本経済をとらえた本文の内容の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

15。

- ① 日本経済は、土地が希少であるため、生産用地を最大限に開発して、効率的に資源配分すべきだ。
- ② 日本経済は、相対的に豊かな賦与量の生産手段を比較的少なく使用する財の生産に特化すべきだ。
- ③ 日本経済は、土地を多く必要とする農業は縮小し、効果的に資源配分できる工業に傾注すべきだ。
- ④ 日本経済は、関税という障壁を撤廃して、諸外国間で自由貿易と資本移動とを自由に行うべきだ。
- ⑤ 日本経済は、望ましい産業・雇用を事後的に決定せず、市場の競争を通じて事前に決定すべきだ。

問8 傍線部C「その論理的根拠」とあるが、これに対する筆者の見解の説明として適切なでないものを、次の①～⑤のうち

から一つ選べ。解答番号は

16。

- ① 一国の「経済厚生」という語の示す概念規定の内実が曖昧であり、それは時に大きな矛盾を含んでいる。
- ② 資源配分の効率性に関する問題意識はあるものの、所得配分の不平等性に関する問題意識があまりない。
- ③ 企業が生産要素の結合として非実体化され、職業に従事する人を非人間的な経済人として把握している。
- ④ 生産要素がそのときどきの市場的条件に応じて用途を変えろという前提条件は、現実的に考えられない。
- ⑤ 生産要素のマリアビリティは、産業部門の比較優位性の変動によって柔軟に転用することが可能である。

問9 空欄甲に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 17。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ① 虚無的な世界に、点々と散在する泡 | ② 現実的な舞台に、綿々と連続する個 |
| ③ 観念的な場所に、刻々と変化する光 | ④ 実在的な空間に、延々と充満する物 |
| ⑤ 文化的な社会に、営々と点在する影 | |

問10 本文の表現の特徴について説明した内容として適切でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 18。

- ① 具体的な経済学者や経済学派の名称を提示した後、その思想を簡単に紹介しながら説明を進めている。
- ② 新古典派の経済学に対する問題点を整理しながら、筆者の考える一国の安定的な発展に論及している。
- ③ 日本の農業基本法の経済思想とGATT制度とが、方向性は同一であるとして詳しく展開されている。
- ④ 筆者が参加した会合のエピソードを補足的に述べ、新古典派の思想傾向のイメージを具体化している。
- ⑤ 戦後の農村の時系列的な変化をたどり直しながら、現代の農業の多様な問題点を詳しく考察している。

問11

本文の題名および副題として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

19。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 農村と農業——新古典派経済理論の虚構 | ② 個人と集団——戦後の日本社会のあり方 |
| ③ 農業と工業——近代日本政治の重要課題 | ④ 文化と社会——人間らしさの探究と研究 |
| ⑤ 農業と農民——日本の農業基本法の構成 | |

問12

本文の内容の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

20。

- ① 農村の役割が、工業化による経済発展のために、人的資源の供給源としての機能を果たすべきだと規定した市場経済的な論理に対抗して、農業基本法は、農村の成長率の維持を目的とした法律である。
- ② 新古典派や新リカードー学派の論理によれば、日本経済はできるだけ土地を少ししか使わずに、外国からの輸入に頼る方が、経済厚生という観点から望ましく、安定的経済発展を遂げると考えられる。
- ③ 日本は高度経済成長期において、新古典派の命題、すなわち、自由な貿易と資本移動のもとで、世界各国の経済厚生が全て高くなるという思想的立場を意識しつつ、現実の政策的選択を実行してきた。
- ④ 新古典派的な経済思想や政策命題は非現実的で反社会的な性格を持つが、日本の土地の相対的希少性を考慮すると、日本では完全に工業部門に特化して、農業部門が消滅するという主張は適切である。
- ⑤ 農業の問題を考える場合、経済的な観点からだけではなく、社会的・文化的な観点からも発展を考えなければならず、農村という総体的かつ概念的な枠組みに依拠しながら、農業を考察するべきである。

第2問

次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。（配点 30）

いま高校生は何を考え、どんな生活をしているのだろう。大雑把おおざっぱな見当はもちろん付くが、それはあくまでも〈大雑把な〉見当にすぎない。高校生もことによったら、ネリリし、キルルし、ハララしているか。

何？ なんだこれとはと、いまおおかたの人は思ったのではないだろうか。そしてごく少数の人が、あれだな、とかつて讀んだ詩を思い出して微笑を浮かべる……。

そう、これは（注1）谷川俊太郎（たにかわしゅんたろう）氏が十代のときに書いた詩に出てくる。火星語なのである。

火星人は小さな球の上で

何をしてるか 僕は知らない

あるい
（或はネリリし キルルし ハララしているか）

しかしときどき地球に仲間をほしがったりする

それはまったくたしかなことだ

火星語だから、意味はわからない。ぼくもわからないし谷川さんだってわかって書いたわけではないだろう。なにしろ火星語なのだから。

しかしこれが谷川俊太郎氏が空想した火星語だということを、たとえば高校のクラスの半数が知っていたらどうだろう。さらに大手企業のサラリーマンの十分の一が知っていたら。

これは決してありえない事態だとぼくは思うが、しかしもしそうだったら、人間の生活はもう少し余裕のある、生き生きとしたものになっているのではないだろうか。

I

には直接結び付かない記憶と思考の回路が人間にはあり、それはわれ

われを深くもすれば活力も与えてくれる大事な源泉なのである。

もうひとつ、別の詩を読んでみよう。

うす汚れた小さな本を

日ひがな一日読んで

おれも遠いマルセーユから

胸いっぱいの手紙を出したくなった。

若さと苦しみ、

それからわれわれの勇氣について語り得る友、

巴里パリの、サン・ルイ島の

あの貧しい木靴づくりの息子へ、

一人の娼婦しょうふが

泣きながら書いたような切ない手紙を。

一九八八年の三月末に、七十七歳で亡くなった詩人、(注2)すがわらかつみ菅原克己氏の二十代のときの作品「ヘビュビュ・ド・モンパルナス」を読んで」の一節である。

「ビュビュ・ド・モンパルナス」というのは、十九世紀末から二十世紀初頭にかけてのフランスの小説家シャルル・ルイ・フィリップの代表作だが、この詩と、それからフィリップの原作の両方を読んだ二十代のはじめの頃、ぼくはむしろこの詩の方に感動してしまった。

甲

があり、将来の展望も開けず、日々悶々もんもんとしていきるとき、この詩は「さわやかな驟しゅう

雨のように」ぼくのこころを洗ったのである。信頼するに足る年長の友や師が見当たらないのはごくあたりまえのことだが、親しい同世代の友とも、われわれは普通こころのはなしはしない。実業の世界にいる大人は無論のことだが、十六、七歳の人間のあいだにあっても、それはなにかしら照れくさく、大人気ないことのように思われるのである。そしてそれはそれとしてみずからのうちに留めておき、当たり障りのないつきあいに終始しているうちに、確実に病んで行くものがこころというものではないだろうか。（中略）

いったいどうして、^A自分が一生をかけてする仕事は詩を書くことだなんて、ぼくは決めてしまったのだろう。はつきりとそう思い定めたのは十五歳の頃のことだが、それはあれかこれかと迷った末に決めたのではなく、もうこれしかないという感じだった。中学のときに国語の授業で詩と詩人の存在を知ったのが発端なのだが、ほんきでそれを選び迷わないというのはこれは資質としか言いようがないことなのかも知れない。文学、^{II}にかぎらず、少年時代に一生の仕事を決めるというのはべつだん珍しいことではないと思うが、それが詩だということはいささか他とちがっているところがある。画家や音楽家、あるいは小説家とことなり、詩は、いかにいい詩を書いても、また詩人としてどんな存在になっても、それだけでは生活できないということだ。親の^乙を齧^{かじ}っているうちはいいが、そのあとは何か他に暮らしの手段をもとめなければならぬ。さもなければ、文字どおり路頭に迷うのである。

こういうことがあらかじめわかっているひとつのジャンルを選び、それに情熱を傾けている高校生というものは特殊な例に属すると思うが、それだけにだれもが経験する親や学校との対立もまた、曖昧さのない、鮮烈なものだったような気がする。

当時、ぼくがたえず言われていたことは、そういうことは趣味として余暇にやれということだった。高校生には高校生としてしなければならないことが他にある筈^{はず}であり、さしあたってそれは受験勉強であろう。大学に入ったら、あるいは大学を出て社会人になったら、仕事の合間に、詩でも歌でも書くがいい。それが一般的な人間の生活の仕方であって、お前のよ

うに何もかも放擲^{ほうてき}して頭の中を詩だけでいっぱいにしていたら、ほんとうに落伍者^{らくごしや}になってしまふ……。

言われることはぜんぶ身に染みてわかつていたが、ぼくはたいへん焦っていたのでそれらの意見に耳を貸すわけにはいかなかった。まず第一に、生涯に一篇^{いっぺん}でいいから優れた詩を残したいのに、最も感受性が鋭敏な時期かも知れない十代の終わりを、他のことにかまけて過ごすことができるだろうか。その年齢の人間にしか書けない詩があるとすれば、それはその年齢のときに書かなければならない。よしんばそれが少年の焦燥からの思考にすぎないとしても、いったいだれが、ぼくが三十歳まで生きると保証するのか。

第二に（これはこの人生で詩を選択する重要な要因になったものだが）、不幸にしてぼくに才能がなくて、結局詩は駄目だとしても——その不幸な自覚は十年二十年と詩にかかわったあと、突然動かしがたい事実として重い石のようにぼくのころに投げ込まれるのではないだろうか——ぼくはこの管理された社会の中で、単に労働力として存在する人間にはなりたくない。たとえ人生を棒に振つても、ある純粹さを保持した、あるがままの人間でありたい……。

昨日のことに明確に覚えている当時の心情をこうして書いていると、やはりそうとう現実ばなれのした高校生だったなと思う。いま考えればこういう年齢のときはもっとゆったりかまえていてよかったのだが、その頃はそんな余裕はとてもなく、母の言葉によれば、「頭の上に何だか毀れ^{こわ}やすいガラス細工を乗せているようで、危なっかしくて見ていられなかった」この高校生は、三年の秋には突然出奔^{しゅつぽん}するという無謀な事件まで起こし（このことを語ろうとするとぼくはいまでも恥ずかしさのために顔に汗が吹き出てくる）、頭上のガラス細工を一瞬のうちに粉粉に砕いてしまうのである。

詩のことはさまざまな角度から、どのようにも語ることができるから、なにもこんな風に若年の日のごたごたを書くこともないと、昨日までのぼくなら思うのだが、ぼくには実は娘が二人いて、そろそろむずかしい年齢になってきたものだから、きみたちの父もまた親や学校と対立したりしてけっこうたいへんだったんだぜと、こんな文章を読むものかどうかかわらないが、一度書いておきたくなってしまった。自分の娘に対してさえこんな感じだから、未知の高校生にどう伝わるものかと

んと見当がつかない。あるいはこれはあまりに特殊な高校生活かも知れぬと思うが、人間の豊かさあるいは多様さは、どこでどんなやつがどんなことを考えて生きているかわからないというところにもあるものだ。多くの内面の彷徨^{ほうこう}と生活上のてんやわんやは、高校卒業後ももちろん続くのだが、そんな状況の中でいつのまにか身につけたのは、単純でしかし深いものに、ごく自然に感動するという

Ⅲ

の姿勢だろうか。

（辻征夫「頭上に毀れやすいガラス細工があつた頃―詩人から高校生へ」

（注1） 谷川俊太郎——東京都出身の詩人・翻訳家・絵本作家・脚本家（一九三一―二〇二四）。

（注2） 菅原克己——宮城県出身の詩人（一九一一―一九八八）。

問 1 空欄Ⅰ～Ⅲに入れるのに最も適切な語を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ選択肢を複数

回使うことはできない。解答番号はⅠ 21 Ⅱ 22 Ⅲ 23。

- ① 芸術
- ② 想像
- ③ 創造
- ④ 精神
- ⑤ 実利

問 2 空欄甲に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

- ① 介護と育児
- ② 手紙と木靴
- ③ 友人と恩師
- ④ 若さと苦しみ
- ⑤ 希望と期待

問 3 空欄乙に入れるのに最も適切な語を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 25。

- ① 肘 ひじ
- ② 肢 あし
- ③ 膝 ひざ
- ④ 踵 かかと
- ⑤ 脛 すね

問4

傍線部A「自分が一生をかけてする仕事は詩を書くことだ」とあるが、この内容の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

26。

- ① 筆者は両親や友人に受験勉強に専念するように忠告されたが、周囲の反対に耳を貸さず詩作を仕事に選んだ。
- ② 筆者は進路に迷っていたものの授業で詩や詩人の存在を知り、自身の資質に確信を抱き詩作を仕事に選んだ。
- ③ 筆者は少年時代に職業を選択することは珍しくないと考えて、生活手段のひとつとして詩作を仕事に選んだ。
- ④ 筆者は早く良い詩を創作したいという焦燥感に駆られており、純粹さへの願望もあつて詩作を仕事に選んだ。
- ⑤ 筆者は何もかも放擲して頭の中を詩でいっぱいにしていたが、曖昧さのない鮮烈な職の詩作を仕事に選んだ。

問5

本文の内容の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

27。

- ① 筆者は、作者だけが理解しているネリリ・キルル・ハララという架空の火星語を引き合いに、少数の高校生はこの詩句に思い当たる節があり、微笑を浮かべるだろうと考えている。
- ② 筆者は、フランスの小説家シャルル・ルイ・フィリップの代表詩と菅原克己の詩とを、日々悶々としていた二十代に読んで、フィリップの詩作に心が洗われるような感銘を受けた。
- ③ 大人はもとより十代の若者は、一般的に、恥ずかしさから、友人のあいだで「ところが病んでいる」という話題を避けて支障のない会話ばかりしているが、確実に心は病んで行く。
- ④ 筆者の、自分に詩作の才能がないという自覚は、本格的に詩にかかわる以前から、動かしがたい事実として心の中に存在したものの、周囲の反対を押し切って詩作を職業に選んだ。
- ⑤ 筆者は、自身の若い頃の迷走やどたばたとした混乱が特殊な部類であるかもしれないと考えているが、このような自分自身の存在も、人間の豊かさや多様さのひとつと考えている。

